平成 ２５年２月１日（金）発行

道建協とうほく

No.51

発行　一般社団法人 日本道路建設業協会
東北支部　広報委員会

【月　山】（国道１１２号田麦俣より望む）

目次

☆年頭所感 ―――――――――――――――――――― 1
☆行事報告 ―――――――――――――――――――― 2
☆対外活動 ―――――――――――――――――――― 8
☆幹事会・委員会活動 ―――――――――――――― 9
☆随想 ―――――――――――――――――――――― 11
☆会員だより ―――――――――――――――――― 13

年　頭　所　感

支部長　　早 稲 田 高 茂

昨年は復興元年、高速道路の本復旧は年内にほぼ終息、直轄工事でも日本海沿岸東北自動車道温海～鶴岡間や金浦～仁賀保間をはじめとする高規格幹線道路がそれぞれ大幅に前倒しで開通、また復興支援道路として早期供用が期待された東北横断自動車道釜石秋田線遠野～宮守間も画期的なスピードで 11 月開通するなど各地で新設道路の供用やインフラの復興が積極的に進められました。

「命の道」として発災で高まった道路整備の重要性・緊急性への期待に応えることが、我々会員に課せられた使命であるとした熱い思いが、最前線の工事関係者のチームワークとなって近隣住民の方々や関係団体の喜びの声へと繋がりました。

関係されました会員各社の皆様のご努力に心より感謝と敬意を表します。

一方で、昨年後半期には、要員不足、資機材の不足・価格の高騰がさらに深刻化し、採算性の悪化はもとより復興事業推進への影響が懸念される事態となりました。

復興事業のスピードアップへの期待に応えるためにも事態改善への更なる取組みが肝要になります。関係機関との連携を強化しつつ我々に課せられた課題の解決に全力で取り組まなければなりません。

復興事業を中心に凍上災の本格化で、繁忙を極めた状況は今年も続きます。常に危険と隣りあわせの作業環境ですが、働く人の命を守ることも我々の使命です。昨年末には、現道路上工事で規制の中に一般車が突っ込み、工事関係者が亡くなるといった悲惨な事故がありました。数年前にも高速道路上で同じような出来事がありました。自らが引き起こす悲しい悲惨な出来事は絶対に防がなければなりません。同時に働く人の命を第三者から守る取組みと活動を関係機関と一体になって進める事も大切です。会員各社の更なる取り組み強化と皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

昨年 12 月に発足した新政権は、経済対策を中心に復興事業と日本再生を掲げ、「コンクリートから人へ」とした前政権の公共工事罪悪論から一変、「国土強靭化」のためインフラ投資を拡大、補正を含めた 15 ヶ月予算の執行による公共工事の増加が期待されます。施策の継続性を強く要望するとともに、我々の業界がその期待に応えられる魅力ある産業へと転換する事を早急の課題として取組まなければなりません。

東北の復興と再生への力強い取組みを期待し、社会基本整備への関わりと我々業界の存在感の発信に引続き注力し、震災の教訓を風化させない、地域に密着した取組みを継続していきます。本年もなにとぞ皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます

今年 1 年が皆様にとってより良い年となりますようご祈念申し上げ念頭の挨拶といたします。

Ⅰ．行　事　報　告

１．「ＡＥＤ」を　～道の駅～　に寄贈

①11月１９日（月）　道の駅「月山」（山形県鶴岡市越中山：国道１１２号）
②11月２２日（木）　道の駅「ふたつい」（秋田県能代市二ツ井町小繋：国道７号）

平成２０年度から社会貢献活動の一環として「道の駅」にＡＥＤを寄贈しており、昨年度までに東北６県の８駅に寄贈しましたが今年も継続して実施することにしました。

現地での贈呈に先立ち、１０月９日、清水広報委員長が東北地方整備局を訪れ、野呂交通対策課長、熊谷道路情報管理官に、ＡＥＤ寄贈に関する協会の社会貢献活動についてＰＲを行いました。

１１月１９日、道の駅「月山」において、早稲田支部長が「このＡＥＤが少しでも道路利用者の安心感の醸成に役立てば」と本間駅長にＡＥＤを手渡しました。本間駅長は「万が一の備えとして役立つＡＥＤを頂き感謝する。観光客などに安心して道の駅を利用してもらえるよう大切に使わせていただきます」と謝辞がありました。その後、施設スタッフがメーカー担当者から使用方法の説明等を受けました。

なお、報道機関が取材に訪れ、贈呈の状況などが夕方のニュースで放映されるとともに地元紙に掲載されました。

１１月２２日、道の駅「ふたつい」では、能代市や道の駅の関係者が見守る中で、早稲田支部長が「ＡＥＤの配備が地域の防災拠点づくりに活用され、道路利用者、地域住民に安全・安心確保の一助になれば」と工藤駅長にＡＥＤを手渡しました。工藤駅長からは「お客さまの安心につながり感謝します。普段から使い方をしっかり習得しておきたい」との謝辞がありました。その後の模擬訓練では、駅従業員からいろいろな質問が出され、担当者の説明を受けながら、本番に備え真剣に取組んでいました。

【11月 19日　道の駅 「月山」にて】

【11月 22日　道の駅 「ふたつい」にて】

２．東北地方工事安全施工推進大会（ＳＡＦＥＴＹ２０１２）

日　時 平成２４年１１月　８日（木）
場　所 仙台市青年文化センター
主　催 東北地方整備局、東北６県、仙台市、
　　NEXCO 東北支社、道建協ほか１５業団体。
出席者　　約５００名　（道建協　２３社　３１人）

次　　第
１）黙とう
２）主催者並びに来賓挨拶
３）表彰
　○優良企業（現場代理人）表彰　　６４名
　【道建協関係】

開柴地区舗装工事	福田　雄史	大林道路㈱
福原地下道上屋建築工事	我妻　　仁	仙建工業㈱
国道４５号付替道路工事	上野　　宏	日建工業㈱
北山トンネル舗装新設工事（２工区）	柿崎　栄司	日建工業㈱

　○優秀論文表彰　　２２名
　【道建協関係】

「変わらぬ願い」	佐藤　三知	日本道路㈱
「安全を３Ｄに考える」	高村　信昭	大成ロテック㈱
「０．５秒の悲劇」	佐藤　良子	鹿島道路㈱

　　（会員応募数　２１４編、優秀賞　３編、佳作　１２編）
４）論文発表（３編）
５）工事現場の事例紹介（２例）
６）決意表明（建設１６団体）

【写真提供 ㈱建設新聞社】

３．平成２４年度 委員会活動報告会・年末懇談会

開催日　平成２４年１２月６日（木）
場　所　ホテルメトロポリタン仙台　４階　千代西
参加者　　会員　約８０名
　次　第

１）あいさつ　早稲田支部長（要旨）

・支部活動に対する会員への御礼
・一部行事を除き、当初計画した年間活動については、概ね遂行することが出来た。
・整備局との意見交換では、支部の要望により事務レベルでの研究会が必要により開催されることになった。また、NEXCO との意見交換も復旧工事に限らず、他の事項について情報の交換を求められるようになった。
・防災訓練の新たな取組みでは、全国組織として本部、１０支部からの支援物資調達情報伝達訓練や整備局や６河川国道事務所へリエゾンを派遣し支援物資と調達可能な資機材リスト等情報提供を実施した。
・アスファルト事前審査に関しては、復旧・復興事業の本格化に伴い砕石・砂等の骨材の不足が見込まれることから、事前審査委員会の承認を得て特例の追加申請で早期承認を図った。
・高齢化が甚だしく後継者の育成が急務であり、新規社員確保のため第２土曜日の統一閉所や社会保険加入促進を図るなど職場環境の整備に務められたい。
・支部運営について、引続きご理解と協力をお願いします。

２）来賓あいさつ　横田 副会長兼専務理事（要旨）

・大震災後の復旧・復興事業について、支部長のもと会員が一丸となって対応いただきお礼を申し上げます。
・道路啓開の櫛の歯作戦は高い評価を得ましたが、その実働部隊は会員の皆様方です。
・資機材等が不足する中で復興事業推進のため、会員が一丸となり取組んでほしい。

３）委員会活動報告

①企画運営委員会（川内　正 幹事長）

・各委員会への活動内容の要請について
・行事用テントの寄贈及び震災遺児育英基金への寄附について
・東北地方整備局との意見交換会の報告
・アスファルト混合物事前審査制度並びに舗装施工管理技術者資格試験について

②広報委員会（清水　俊介 委員長）

・支部広報誌「道建協とうほく」について
・震災ボランティア活動について
・道の駅へのＡＥＤ寄贈並びに東北道の駅連絡会からの感謝状の授与について
・道路整備推進を図るイベント協賛（北陸道路舗装会議など）について

③技術委員会（石井 孝道 委員長）

・東北地方整備局からの要請による意見交換について
・EE 東北’12 について
・NEXCO 東北支社舗装技術検討会について
・アスファルト混合物事前審査制度の立入調査委員について

④公共工事委員会（松谷 健一 委員長）

・東北地方整備局との道路建設に関する研究会について
・NEXCO 東北支社との意見交換について
・建設資材対策東北地方連絡会について

⑤安全環境委員会（宮村 博三 委員長）

・安全環境講習会について
・安全パトロール、官民合同安全パトロール、NEXCO 安全パトロールについて
・東北地方工事安全施工推進大会（SAFETY２０１２）について

⑥防災委員会　（近藤 雅孝 委員長）

・防災協定の更新並びに協定見直しの検討経過について
・総合防災訓練の計画、実施、今後の方針について

４）講演

演　題：～道路建設業をめぐる最近の動向について～
講　師：副会長兼専務理事　横田　耕治

（委員の感想）
大変有意義な講演でした。社員への意識向上のため活用します。

【年末懇談会の部】

１７時３０分から会場を２１階のスカイホール銀河に移して、年末懇談会が開催されました。早稲田支部長からの挨拶ではじまり、川内幹事長の乾杯の発声で歓談の場に移りました。一同会しての懇談会は一年振りで話が弾んでいたようでした。料理が良かったのか夜景が良かったのか、参加者からの評判がすこぶる良好で「次回もこの場で」との声もありました。盛会のなか中締め時刻が到来し、宮村安全環境委員長の音頭で閉会となりました。

４．平成２５年 安全祈願祭

日　時　平成２５年１月２９日（火）
場　所　櫻岡大神宮（仙台市青葉区西公園）
出席者　早稲田支部長、川内幹事長、
宮村安全環境委員長、上河副委員長、
安全環境委員ほか　１４名

【写真提供 ㈱建設新聞社】

早稲田支部長　記者会見要旨

・最低限の社会的責任として絶対に重大災害を起こさないという決意を新たにしたい。新設工事と併せて、路上工事が増えてくると思われる。現場で働く人の安全も第三者に対しては ＰＲしていかなければならない。

・路上工事、現道工事がらみの工事の安全対策に関しては我々だけでは出来ない部分もある。再発防止を含めて発注者と一緒になってパトロールを行うなど、これまでの取り組みを継続していきたい。

５．アスファルト混合物事前審査

１）第６４回 アスファルト混合物事前審査委員会

日　時：平成２４年１２月２０日（木）
場　所：ハーネル仙台

昨年９月に申請のあった３１混合所４４７混合物および骨材不足に対応するための追加申請２混合所１１混合物の審査を行い、全ての混合物が認定されました。また、昨年１２月から秋田県でも事前審査制度が認められることになり、これによる追加申請を受付けることが了承されました。

２）アスファルト混合物事前審査機関公募への応募

昨年１２月７日、東北地方整備局より、アスファルト混合物事前審査機関の公募があり、東北支部として応募しました。１月９日にヒアリングを受け、１月３０日に審査機関として特定されました。審査機関としての指定は４月１日付けで、指定期間は平成２９年３月３１日までの４年間です。

Ⅱ　対　外　活　動　(H24/11/1～)

１．東北地方整備局関係

【「ＥＥ東北’」作業部会（第４回）】

開催日：平成２４年１１月２８日（水）
場　所：フォレスト仙台
出席者：　稲辺委員、畠山
議　題：①「ＥＥ東北’１２」実施報告
②アンケート結果（総括）
③出展者負担金（出展料）の精算
④来年度の開催について

【「ＥＥ東北’」実行委員会（第３回）】

開催日：平成２４年１２月１３日（木）
場　所：フォレスト仙台
出席者：早稲田支部長、川内幹事長、石井技術委員長
議　題：①「ＥＥ東北’１２」実施報告
②アンケート結果（総括）
③出展者負担金（出展料）の精算
④来年度の開催について　　等

【年始あいさつ】

実施日：平成２５年　１月　７日（月）
場　所：東北地方整備局
出席者：早稲田支部長、川内幹事長ほか

【舗装に関する技術検討会（第１回）】

開催日：平成２５年　１月１８日（金）
場　所：二日町東急ビル
出席者：稲辺委員、藤永委員、浅田委員
議　事：①適用性について（適材適所なＡｓ/Ｃｏｎ舗装の活用）
②コンクリート舗装の品質・出来映えの向上について

２．東日本高速道路㈱東北支社関係

【東北支社管内本復旧工事についての意見交換】

開催日：平成２４年１１月２７日（火）
場　所：NEXCO東北支社
出席者：改良チーム菊池リーダーほか２名
浅田技術委員、藤永技術委員、小池公共工事委員、松原
議　題：復旧工事の設計変更について

３．後 援 行 事 等

【２４年度 道路講演会】（後援）

開催日：平成２４年１２月 ５日（水）

場　所：仙台市戦災復興記念館

講　演：「最近の道路の話題」

東北地方整備局　道路部長　川瀧　弘之　氏

「公共事業とメディア」

㈳日本道路協会　道路広報アドバイザー　木戸　健介　氏

「日本の舗装が抱える課題 －舗装の維持修繕ガイドブックの紹介－ 」

㈳日本道路協会　舗装委員会委員長　吉兼　秀典　氏

【新春賀詞交歓会（宮城県警備業協会 主催）】

開催日：平成２５年 １月１８日（金）

場　所：江陽グランドホテル

出席者：上河安全環境副委員長

Ⅲ 幹 事 会 ・ 委 員 会 活 動 (H24/11/1～)

１．幹 事 会

【第４回】

開催日：平成２４年１１月１２日（月）

出席者：早稲田支部長、川内幹事長、幹事１０名

（松谷、齋藤、石井、上河、清水、近藤、菅野㈹、宮村、皆川㈹、大西㈹）

議　事：① 活動の概況について（9/24～）

② 全国支部長・幹事長会議の報告

③ 委員会活動報告会について

【第５回】

開催日：平成２５年１月２９日（火）

出席者：早稲田支部長、川内幹事長、幹事１１名

(小野、松谷、齋藤、石井、上河、清水、近藤、菅野、宮村、皆川(代)、大西)

議　事 ：① 活動の概況について（11/12～）

② ＡＥＤ寄贈の報告

２．安全環境委員会

開催日：平成２４年１１月１２日（月）

出席者：宮村委員長、上河副委員長、委員１３名（須藤、伊藤勝、鈴木、秋山、菊池

大谷、高橋、伊藤忠、佐々木、高木、永澤、斎藤、早坂）

議　事：① 官民合同パトロール結果について

② 安全パトロール点検結果―表彰推薦候補の選考

③ 活動計画について

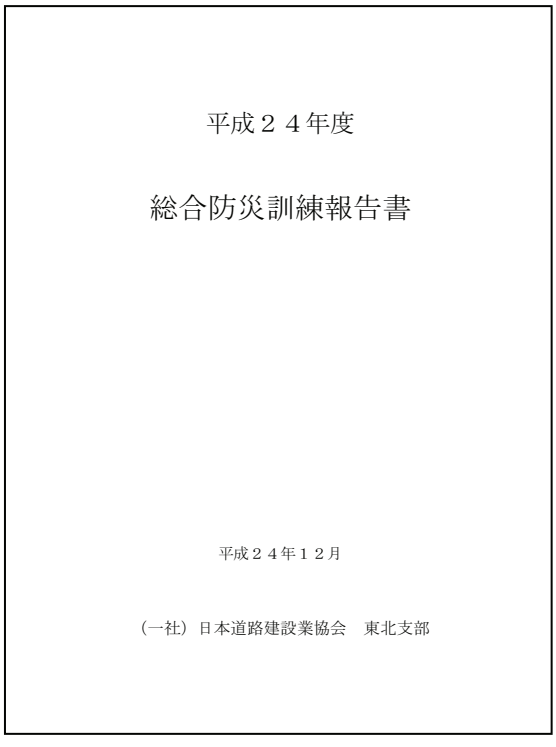
開催日：平成２５年　１月２９日（火）
出席者：宮村委員長、上河副委員長、委員１３名（須藤、伊藤勝、秋山、菊池、大谷、
　　高橋、伊藤忠、佐々木、高木、永澤、斎藤、早坂）
議　事：① 安全パトロールまとめ
　　② 表彰推薦

３．防災委員会

開催日：平成２４年１１月２６日（月）
出席者：近藤委員長、委員１０名（中上、伊藤勝、石頭、新田、浪岡、鎌田、伊藤忠
　　奥村、井田、田澤）
議　事：① 防災訓練の評価・反省・今後の活動について
　　② NEXCO 東北支社との防災協定について
　　③ ２４年度活動状況について

【NEXCO 防災協定打合せ】
実施日：平成２４年１２月４日（火）
場　所：NEXCO 東北支社
出席者：管理事業統括課 阿部課長代理
　　近藤委員長、畠山
議　題：防災協定について

【総合防災訓練報告書提出】
実施日：平成２４年１２月１０日（月）
　　東北地方整備局 梅森防災課長へ報告書を提出（新田委員）

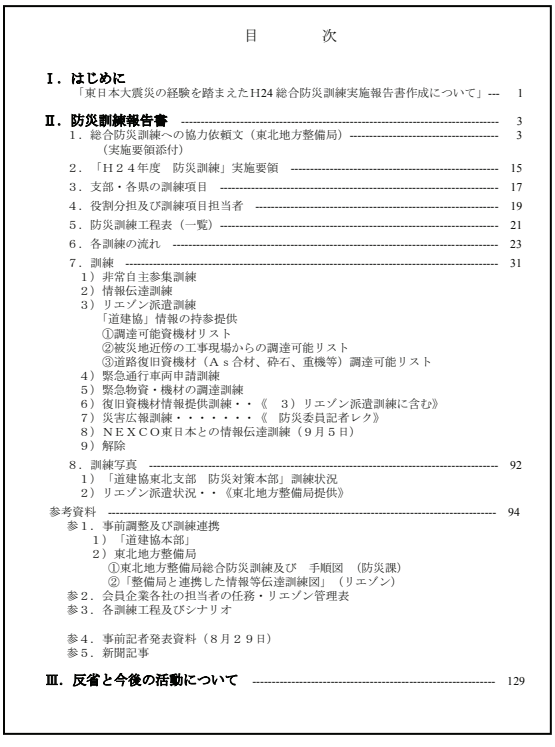


平成２４年度

総合防災訓練報告書

平成２４年１２月

（一社）日本道路建設業協会　東北支部



目　　次

Ⅰ．はじめに
「東日本大震災の経験を踏まえたH24 総合防災訓練実施報告書作成について」--- 1

Ⅱ．防災訓練報告書 --- 3
1．総合防災訓練への協力依頼文（東北地方整備局）--- 3
（実施要領添付）
2．「Ｈ２４年度　防災訓練」実施要領 --- 15
3．支部・各県の訓練項目 --- 17
4．役割分担及び訓練項目担当者 --- 19
5．防災訓練工程表（一覧）--- 21
6．各訓練の流れ --- 23
7．訓練 --- 31
1）非常自主参集訓練
2）情報伝達訓練
3）リエゾン派遣訓練
「道建協」情報の持参提供
①調達可能資機材リスト
②被災地近傍の工事現場からの調達可能リスト
③道路復旧資機材（Ａｓ合材、砕石、重機等）調達可能リスト
4）緊急通行車両申請訓練
5）緊急物資・機材の調達訓練
6）復旧資機材情報提供訓練・・《　3）リエゾン派遣訓練に含む》
7）災害広報訓練・・・・・・・《　防災委員記者レク》
8）ＮＥＸＣＯ東日本との情報伝達訓練（９月５日）
9）解除
8．訓練写真 --- 92
1）「道建協東北支部　防災対策本部」訓練状況
2）リエゾン派遣状況・・《東北地方整備局提供》
参考資料 --- 94
参1．事前調整及び訓練連携
1）「道建協本部」
2）東北地方整備局
①東北地方整備局総合防災訓練及び　手順図　（防災課）
②「整備局と連携した情報等伝達訓練図」（リエゾン）
参2．会員企業各社の担当者の任務・リエゾン管理表
参3．各訓練工程及びシナリオ
参4．事前記者発表資料（８月２９日）
参5．新聞記事
Ⅲ．反省と今後の活動について --- 129

随　　想

技術委員長　　石井　孝道
(鹿島道路(株)北日本支店)

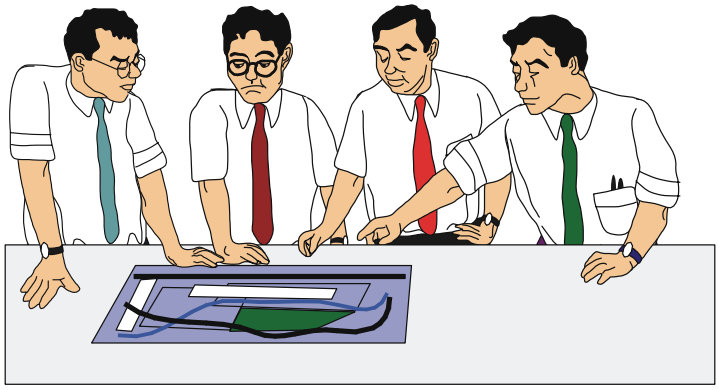
技術委員会は委員長、副委員長を含め 12 社、16 名で構成されています。過去の活動では、東北地方整備局の施工の「合理化委員会」で、「契約条件の明示、密粒度 20T の施工、東北地方の排水性舗装の適用」などの成果を報告しています。

最近では、東北地方整備局：「舗装の長期保証」、「コンクリート舗装の供用性」、NEXCO 東日本東北支社：「舗装技術検討会」、「震災本復旧工事の課題」などの業界窓口として参画しています。単独対応が難しい場合は、公共工事委員会と合同で「受注者側の意見」を反映できるように活動しています。

「道路」の役割は、東日本大震災や笹子トンネルの天井板落下事故が契機となってしまいましたが「命の道」、「社会資本の長期保全・更新」の語句とともに一般の方にも認識されました。さらに「持続可能で活力ある国土・地域づくり」に向けた主要政策では、「復興道路・復興支援道路」の新規事業化区間は 224km となり「コンクリート舗装」の採用が検討され、社会資本の一斉点検なども話題となっています。

社内では、道路延長の 5%となった「コンクリート舗装」の施工技術継承が課題となっています。NHK 大河ドラマ「八重の桜」の「什の掟の、ならぬことはならぬものです。」ではありませんが、現場での不具合要因の事前教育が必要となっています。先生（先に生まれた者）の責務として、次代を担う者に「現場力」を伝え、「ハンサムウーマン」ならぬ「ハンサムロードマン?」を育てていきたいと考えています。

委員会活動については、引き続き会員各社のご支援ご協力をお願い申し上げます。



「三陸復興国立公園(仮称)」
海岸長距離歩道終点の「蕪島」へどうぞ

技術委員会副委員長　大西國雄
(前田道路(株)東北支店)

私の出身地である青森県南部地方の名物に、第７回 B-1 グランプリ in 九州（2012.10）で念願のゴールドグランプリを獲得した、その名も今や全国区の「八戸せんべい汁」があります。

その八戸には市で唯一の国指定天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」があり、この広報誌をご覧になっている２月下旬頃には、ミャーミャーと鳴くウミネコが集まりはじめ、繁殖期ともなるとその数約３万羽、そこかしこで、ミャーミャーとひしめき合い、蕪島神社へ参拝しようにも鋭い眼光で一斉に睨まれるので、かなりの勇気が必要です。

意を決し、神社へ進むと今度は空襲（白いＢＯＭＢ）です。階段下の鳥居横にビニール傘が用意されていますが、風の強い日は役に立たないのでご注意を・・・。

そこで、蕪島観光のお勧めポイントを紹介します。蕪島の東側にある水産科学館マリエントです。何万羽ものウミネコが、黄色く花をつけた蕪（菜の花の仲間）の咲く島の上を舞う姿は美しいものです。さらに夕刻には、遠く八甲田山へと姿を消していく夕日も絶景です。

ぜひ、７００ｋｍの長距離海岸トレイル終点「蕪島」を訪れて「海の街」「横町の街」「氷都」八戸の風土に触れてみて下さい。

環境省ホームページより

会員だより

「向 春 閑 話」

三好建設株式会社
代表取締役　三 好 健 志

小学校６年生の時、鼻を垂らしながら見たメキシコオリンピックサッカー３位決定戦、日本対メキシコ、杉山からのクロスを釜本が胸トラツプで落としメキシコゴールに叩き込んだ時から早４５年が経ち、還暦がおぼろげに見えてきた今でもまだサッカーに関わっている。（もちろん現役プレーヤーであるが、市協会の雑用も結構こなしている。）

先の東日本大震災では、国際サッカー連盟、日本サッカー協会、そして全国のサッカー関係者から心温まる御支援をたくさんいただき、改めてサッカーが築く「絆」というものに感謝と感動を深めたところである。

さて近年の日本サッカーは国際舞台で大活躍をしているが、もちろん一朝一夕で強くなったわけではない。

これでもかというぐらい何度も叩きのめされ、そこから這い上がってきた強さである事は間違いではない。

しかし近年の日本サッカーは、以前のように何とか世界水準との距離を縮めようと、がむしゃらに列強を摸倣し続け、最後は根性と気合で食い下がるスタイルからは脱し、世界との差を「優劣」ととらえず、「違い」と認識することで日本も世界を凌駕できる武器、戦略、を磨いているように思う。

日本は長い歴史の中で終戦をはじめとして、どんな逆風の中でも立ち上がり、立ち直り、そして成功をおさめてきた。

それは日本民族固有の、粘り強さ、勤勉性、器用さ、発想力、団結力、そして勇気によって成しえてきたものにほかならない。

それがサッカーというスポーツにも脈々と受け継がれている。

ドイツの強固さやブラジルの個人技のような伝統国のスタイルも、作り出したものというより、自分たちの特長が戦いの中で磨かれたものだろう。

そんな事を思いながらふと自分の足元を見つめた時、私たち地方の中小建設業者もまた内側にあるもの、即ち「私達だからこそ持ち得るエネルギー」を大切にして、「優劣」だけで片付けたり諦めたりせず、「違い」を強調することで、成長もしくは持続を可能にする経営に努めたいと思う。

新春早々終盤少し硬くなりましたが、要は「露地物の野菜の旨さ」を存分に発揮するのが私達の役目ですかね。

本年も宜しくお願い申し上げます。

敬 白

「再生に向けて」

大有建設株式会社　　東北支店
森　尚之

東日本大震災より、まもなく２年が経過しようとしてます。世論では「進まぬ復興」・「のどもと過ぎれば」等と騒がれてる中、被災地においては日々復旧・復興工事が確実に行われ又、昨年度は高速道路の復旧工事が無事完了し、工事に携わられた支部会員の皆様大変ご苦労様でした。又本年度は復興２年目および公共事業の増大等により昨年以上の慌ただしさが予測されると思います。そして当社の事業が本年も更に復興に関われる事ができれば嬉しく思います。ということで、微力ではございますが、当社環境事業部が被災地にて現在取り組んでいる復興に向けての事業を紹介します。

それは震災津波により、多大な被害を覆った沿岸部の農地復興事業です。主な内容は海砂で堆積された除塩でありますが、当事業部が携わっている事業はガレキ混入物で堆積された箇所の土壌ガレキ混入物の分別・フルイ分け作業で、既存農土の再生化を行う事業です。

唯単に異物を除去するだけの単純な内容ではありますが、当初はボランティア・地元農家の人達が１つ１つのガレキを人力により、選別除去作業を行っていましたが、機械処理化での提案依頼があり、当事業部ではスタースクリーンという回転式のフルイを搭載した【マルチ選別工法】と【トロンメル選別工法】の２機種を用いて昨年８月より、毎日コツコツとフルイ続けています。２機種とも粘性の高い土壌フルイ分け向きの機械ではありませんが、早期の復興が可能となり、今、現在着手している箇所においては、今年の稲作ができる状態まで進捗してます。しかし２機種とも試行錯誤の状態である事も現実です。

当環境事業部も今年復興２年目を迎え、より多くの再生・復興事業に携わり、１人でも多くの被災者の方が笑顔を取り戻してもらえるよう幾多の難題にチャレンジしてまいります。

道路建設 PR 内容で無く大変恐縮ではございますが、どうか今後とも、支部会員皆様のご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

又この２種類の機械のフルイ能力は土壌のみだけでは無く用途が多々有ります。皆様の近くでも貴重な資源があればお気軽にご相談を。

【マルチ選別工法】

【トロンメル選別工法】

編 集 後 記

道建協とうほく No.５１　担当

伊藤 忠良（常盤工業（株）東北支店）
柴田 秀明（東京舗装工業（株）東北支店）

２０１３年。新しい年が幕を開けました。穏やかに年が明けたと思いましたら、日本海側を中心とした大雪。そして厳しい寒さの毎日、今年も異常気象の年となるのでしょうか。

あの震災からまもなく２年。復興はまだまだ道半ば、今年こそ復興に弾みをつけたいところです。

「コンクリートから人へ」をキャッチフレーズにし、公共事業を削減した民主党政権から一転、新政権は防災・減災対策を中心としたインフラ投資に力を入れるようです。又、景気対策を掲げており、経済再生新政権に景気回復を期待するところです。

リニューアルされた広報誌「道建協とうほく」は会員の皆様のご協力によりまして、３年目になります。今後、益々充実した広報誌にしたいと思いますので会員の皆様ご協力よろしくお願い致します。